

第3節

情報発信や公文書管理・情報公開など

1

様々な広報活動

防衛省・自衛隊の活動は、国民一人一人の理解と支持があって初めて成り立つものであり、広報活動は、国民の信頼と協力を得るために重要である。このため、防衛省・自衛隊は、その活動や取組などを国民に理解してもらえるよう、様々な方法により積極的に広報活動を行っていくこととしている。

また、自衛隊が任務を安定的に遂行するためには、諸外国の理解と支持も不可欠であることから、自衛隊の海外における活動を含む防衛省・自衛隊の取組について、国際社会に向けた情報発信を強化することも重要である。

参照 資料79（『自衛隊・防衛問題に関する世論調査』抜粋（内閣府大臣官房政府広報室））

1

国内外に対する情報発信など

防衛省・自衛隊は、公式ホームページ、SNS、動画配信など、インターネットを活用した積極的な情報発信に取り組んでいる。また、パンフレットや広報動画の作成、広報誌『MAMOR（マモル）』への編集協力、報道機関への取材協力、講義や講演への講師派遣など、正確な情報

を、幅広く、適時に提供しよう努めている。加えて、若年層に対する情報発信のための取組として、『防衛省・自衛隊KIDS SITE^{キッズ サイト}』において動画を含む若年層向けコンテンツを掲載しているほか、小学校高学年から高校生を対象とした『まるわかり！日本の防衛』も発行している。

さらに、防衛省・自衛隊の活動は、今や世界中に広がっていることから、国際社会に対して、その活動を正確に発信し、諸外国の理解と信頼を得ることが大変重要である。そのための取組として、英語をはじめとする外国語による情報発信を行っており、特に、英語版防衛省ホームページの一層の充実とSNSを活用した迅速かつ分かりやすい情報発信を積極的に行っているほか、海外メディアへの取材機会の提供、英語版防衛白書の作成、英文広報パンフレット『Japan Defense Focus（JDF）』の発行など様々な方法により国際社会に向けた情報発信を行っている。

参照 図表V-2-3-1（防衛省・自衛隊のSNS利用状況（フォロワー数））、図表V-2-3-2（部隊などにおける情報発信の取組（一例））、巻末資料「平和を仕事にする」

図表V-2-3-1

防衛省・自衛隊のSNS利用状況（フォロワー数）

(2025年3月31日現在)	X	Facebook	Instagram	YouTube
 防衛省・自衛隊	約124万人 (英語アカウント)約3万人	約16万人	約9万人	約7万人
 統合幕僚監部	約32万人	約4万人	約3万人	約1万人
 陸上幕僚監部	約87万人	約23万人	約10万人	約30万人
 海上幕僚監部	約93万人	約27万人	約13万人	約35万人
 航空幕僚監部	約71万人	約12万人	約17万人	約16万人
 防衛装備庁	約5万人	約400人	約1,000人	約6万人

図表V-2-3-2 部隊などにおける情報発信の取組（一例）

陸自第7普通科連隊(福知山)
広報チャンネル(YouTube)



空自築城基地
公式アカウント(X(エックス))
「F-2のドラッグシュート(制動傘)を使用後に再梱包する整備員の技」



F-2のドラッグシュート(制動傘)を使用後に再梱包する整備員の技。ぜひご覧ください！

#航空自衛隊
#築城基地



2 イベント・広報施設など

防衛省・自衛隊では、自衛隊の現状を広く国民に紹介する活動を行っている。この活動には、海自の体験航海や空自のブルーインパルスによる展示飛行などがある。また、全国に所在する駐屯地や基地などでは、部隊の創立記念日などに、装備品の展示や部隊見学などを行うとともに、地域の協力を得て、市中でのパレードを行っている例もある。さらに、自衛隊記念日記念行事の一環として、自衛隊音楽まつりを毎年開催している。

また、陸・海・空自がそれぞれ主担当となり、観閲式、観艦式、航空観閲式のいずれかを毎年行っている。2024年は、陸自朝霞訓練場(埼玉県)において、防衛省・自衛隊70周年記念観閲式を行った。

さらに、広報施設の公開にも積極的に取り組んでいる。市ヶ谷地区内の施設見学(市ヶ谷台ツアー)では、大本営地下壕跡も公開されており、2025年1月には見学者の累計が50万人を超え、記念セレモニーを行った。そのほか、各自衛隊において、広報館や史料館などを公開している。

これらのイベントなどは、「自衛官の処遇・勤務環境の改善及び新たな生涯設計の確立に関する関係閣僚会議」において、至上命題とされた自衛官の確保のため、広報・募集の取組を更に推進していくとされたことも踏まえ、特に自衛隊への入隊に興味のある方をはじめとする青少年

層に参加していただき、自衛隊への関心を高めてもらう機会として活用することとしている。また、イベントなどの映像をインターネットで配信し、より多くの国民に自衛隊の活動を知っていただく機会とするよう努めている。



市中パレードの様子(鹿児島県瀬戸内町)(2025年1月)



令和6年度自衛隊音楽まつりの様子(2024年11月)



資料：イベント・交流活動(全国の防衛省・自衛隊の様々なイベントの一覧)

URL：<https://www.mod.go.jp/j/////////press/events/index.html>



防衛省・自衛隊70周年記念観閲式と航空自衛隊70周年記念行事

■ 防衛省・自衛隊70周年記念観閲式

防衛省・自衛隊は、2024年11月9日、陸自朝霞訓練場（埼玉県）において、石破内閣総理大臣の観閲のもと、防衛省・自衛隊70周年記念観閲式を挙行了しました。

本式典では、陸・海・空自の航空機、車両、徒歩部隊が観閲行進を行い、一糸乱れぬ姿を披露しました。

石破内閣総理大臣は、「この70年間、ただひたすらに任務に従事してきた自衛隊員に対し、心からの敬意を表します。防衛力の最大の基盤は自衛官です。人的基盤を強化するとともに、激変する安全保障環境の中で、日本を守り、国民を守り抜く覚悟です。」などと訓示し、隊員の士気は大きく高揚しました。



訓示をする石破内閣総理大臣



観閲行進の様子

■ 航空自衛隊70周年記念行事

空自は、2024年4月25日、市ヶ谷基地において70周年記念式典を開催し、「航空宇宙自衛隊」への進化に向けて、団結を強化しました。

また、同年10月、関連行事として空軍参謀長等招へい行事（AFFJ）を開催しました。

AFFJでは、Air Force Forum in Japan 多国間協議（InPACT）や、Indo-Pacific Air chiefs Conference in Tokyo 内倉空幕長と各国参謀長などの会談を始めとする様々な交流プログラムを通じて、空軍種間の相互理解と信頼関係を深化させました。

70周年を記念して作曲した行進曲「こころ誇虹～Arc in the sky～」はYouTubeでご覧になれます。

なお、海自は2022年に創設70年を迎えています。

参照 Ⅲ部3章1節3項1(3)イ（各軍種の取組）



空自70周年記念ロゴマーク



動画：防衛省・自衛隊70周年記念観閲式

URL：<https://www.youtube.com/watch?v=1hnwsnGgqxqA>



動画：空自70周年記念行進曲「こころ誇虹～Arc in the sky～」

URL：<https://m.youtube.com/watch?v=VwDftsMb-X4>





オリンピックと自衛隊体育学校の取組

防衛省・自衛隊では、メダリストの育成を通じスポーツ振興などに寄与するため、自衛隊体育学校(埼玉県朝霞市)においてオリンピック等国际級選手の育成を目的とした特別体育課程教育が行われています。対象競技は、レスリング、ボクシング、柔道、射撃、ウエイトリフティング、アーチェリー、近代五種、陸上、水泳、カヌー、女子ラグビー、バイアスロン、クロスカントリースキーの計13種目です。

自衛隊体育学校の課程教育では、世界で戦えるアスリートの育成、アスリートファースト視点による最高

のサポート体制によりオリンピック等国际級選手を輩出しており、昨年開催されたパリ・オリンピックにおいても、7名の選手が出場し、優秀な成績を収めました。また、競技引退後も自衛官として競技経験を生かし、あらゆる分野で活躍しています。この課程教育には、全国レベル(全日本選手権、国民スポーツ大会など)の大会上位入賞者、各スポーツ団体(中央競技団体)の強化指定選手又は体育学校内選考基準(タイム記録)達成者が、採用試験による選考を経て自衛隊体育学校に入校しています。



過去のオリンピックメダリスト



水泳蝦名選手【Photo: KyodoNews】

パリ・オリンピック出場選手の紹介(一覧)

競技	当時の階級	氏名	パリ・オリンピック成績
レスリング	1等陸尉	たかたに だいち 高谷 大地	銀メダル(フリースタイル74Kg級)
レスリング	2等陸曹	いしべろ はやと 石黒 隼士	第7位
柔道	2等陸尉	にいぞえ さき 新添 左季	銀メダル(男女混合団体)
水泳	2等陸曹	えびな あいり 蝦名 愛梨	第13位
近代五種	2等海曹	さとう たいしゅう 佐藤 大 宗	銀メダル
近代五種	3等陸曹	うちだ みさき 内田 美咲	第23位
女子ラグビー	2等陸曹	かじき まりん 梶木 真凜	第9位(日本代表チーム)

3 隊内生活体験

防衛省・自衛隊は、大学生・大学院生または女性を対象とした自衛隊生活体験ツアー¹や、団体・企業などを対象とした隊内生活体験²を行っている。これらは、自衛隊の生活や訓練を体験するとともに、隊員とじかに接することにより、防衛省・自衛隊に対する理解を促進するものである。



空自那覇基地における「女性のための自衛隊体験」の様子（2024年7月）



資料：スポット開催ツアー（自衛隊体験や女性向け、大学生向けのツアーなど）
URL：<https://www.mod.go.jp/j/////////press/tour/index.html>



2 公文書管理・情報公開に関する取組

1 公文書の適切な管理や情報公開制度の適切な運用の必要性

わが国において最も重要な制度である民主主義の根幹は、国民が正確な情報に接し、それに基づき国民が適切な判断を行って主権を行使することにあり、国民が正確な情報に接するうえで、政府が保有する行政文書は、最も重要な資料である。このため、行政文書を適切に管理し、情報公開請求に適切に対応することは、防衛省・自衛隊を含む政府の重要な責務である。

防衛省・自衛隊は、政府全体としての公文書管理の適正化に向けた施策⁴も踏まえた再発防止策に全力で取り組み、職員の意識や組織の文化を改革し、チェック態勢を充実させるなど、行政文書の管理や情報公開請求への対応の適正化に取り組んでいる。

また、行政文書については作成から保存、廃棄・移管までを一貫して電子的に管理することにより、体系的・効率的な管理を進め、行政文書の所在把握、履歴管理や探索を容易にするとともに、文書管理業務の効率性を向上させることを推進し、紙媒体の行政文書を抑制することで勤務環境の改善やテレワーク勤務などの働き方改革にも寄与している。

参照 資料80（防衛省における情報公開の実績（2024年度））

2 公文書の適切な管理や情報公開制度の適切な運用の推進

防衛省・自衛隊は、南スーダン日報問題やイラク日報問題により、防衛省・自衛隊に対する国民の不信を招いたことを重く受け止めている³。

- 1 各体験ツアーの公募は、防衛省・自衛隊ホームページなどで行っている。
- 2 陸・海・空自の生活を体験するツアーであり、自衛隊地方協力本部が窓口となって、民間企業などからの依頼を受けて実施している。
- 3 2016年、南スーダン日報などの情報公開請求に対して、防衛省として不適切な対応や対外説明が行われた。また、南スーダン日報問題の再発防止策の一環として、日報などの管理作業を進めていたところ、2017年、稲田防衛大臣（当時）からイラク日報の探索指示がなされ、発見されたにもかかわらず、大臣まで報告が行われなかった。
- 4 公文書管理の適正の確保のための取組について（平成30年7月20日行政文書の在り方等に関する閣僚会議決定）

3 政策評価などに関する取組

1 政策評価の取組

防衛省は、政策評価制度に基づき各種施策について評価を行っており、2024年度には、研究開発や規制に関する事業の政策評価を行った⁵。

2 証拠に基づく政策立案 (EBPM) の推進

Evidence-Based Policy Making

防衛省は、政策立案総括審議官のもと、行政事業レビューをEBPMの実践の場とし、意思決定のプロセスに活用するなど、EBPMの取組を推進している。

3 個人情報保護に関する取組

防衛省・自衛隊は、個人情報保護法⁶に基づき、個人の権利利益を保護するため、保有する個人情報の安全管理などの措置を講ずるとともに、保有個人情報の開示請求などに適切に対応している。

4 公益通報者保護制度の適切な運用

防衛省・自衛隊では、内部の職員などからの公益通報に対応する制度と外部の労働者などからの公益通報に対応する制度を整備し、それぞれの窓口を設置して公益通報への対応、公益通報者の保護などを行っている。

⁵ 政策評価は、各府省が行っている政策の効果を測定・分析し、その結果を政策の見直しや新しい政策の企画・立案に役立てるために行っている取組。2024年度に、防衛省は初めて規制に関する政策評価（風力発電関連、防衛装備移転関連、能動的サイバー防御関連）を行った。

⁶ 個人情報の保護に関する法律